

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立鳥羽高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		これからの地域社会をささえる若者が育ち合う学校 ～子どもたちが地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する～
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に誇りを持ち、地域社会をささえる若者として、自らの成長を実感し、自己肯定感、コミュニケーション能力を向上させている。 ○それぞれの進路実現に向けて、基礎的・総合的な学力や社会的・職業的自立に必要な能力と態度を身につけている。 ○学校の教育活動や地域貢献活動が、鳥羽・伊勢志摩地域の活性化につながり、地域を支える市民に成長する。 ○国際交流活動に取り組み、豊かな国際感覚を身につけている。 ○命の大切さや他者の立場を理解し、自らを律し、思いやりを持って行動できる。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動を通じて教職員が生徒の成長を実感し合い、誇りと自信を持って学校の組織力を向上させる教職員。 ○授業を大切に、生徒の基礎学力の定着・向上に取り組むとともに、本校の特色を生かした地域学習や体験的活動を通して総合的な学力を育むことに前向きに取り組む教職員。 ○一丸となって子どもに向き合い、様々な職種、若手と経験豊かな職員が対話を通じて学び合っている教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】 高校生活の充実（基礎学力の定着・発展的学力の伸長・部活動・仲間づくり）、進路実現</p> <p>【保護者】 子どもの学力・コミュニケーション力・社会性の向上、進路希望の実現、安全で安心して学べる学校</p> <p>【地域】 観光・防災等の地域の活性化への貢献、生涯学習・住民交流の場の提供、生徒の健全育成</p> <p>【企業・大学等の進路先】 社会的・職業的自立に必要な生徒の基礎学力・基本的生活習慣の育成・定着</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>【保護者】 子どもの進路実現、安全・安心の学校づくり</p> <p>【中学校】 生徒の進路保障、中高連携の推進</p> <p>【地域】 地域社会の活性化、生涯学習の場の提供</p> <p>【企業・大学等】 基礎学力の定着・向上、基本的生活習慣の育成</p>	<p>【保護者】 PTA活動等生徒の成長支援への連携・協力</p> <p>【中学校】 生徒の継続した成長支援のための情報共有、中高連携の推進</p> <p>【地域】 地域学習活動の機会・素材・人材の提供、生徒の健全育成活動での連携・協力</p> <p>【企業・大学等】 キャリア教育や地域学習等の素材・人材・場の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の中における小中学校の児童生徒、教員保護者等との連携、交流や情報発信の方法を検討する。 ・生徒が作成した動画やVRを使った学校のPR活動を推進する。 ・ICT教育に必要なタブレットやノートパソコンの活用を推進する。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>【現状】 平成27年度入学生から、デュアルシステムを含む教育課程やキャリア教育計画が実施されている。地域の特性を生かした観光教育、地域学習の要素を取り入れた学習を通じて、生徒は総合的な学力をつけ、将来の地域社会を支える市民へと成長するための仕組みが整いつつある。多くの生徒が3年間の総合学科の多様な教育活動や部活動等を通じて大きく成長している。授業に向かう姿勢や服装、登下校のマナーも向上している。しかし一方で、十分な自尊感情を持ってない生徒や仲間との良好な関係づくりが苦手な生徒も見られる。</p> <p>【課題】 ＜主体的・対話的で深い学びについて＞ アクティブラーニングの視点から授業の見直しを図るとともに、地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業を受け、鳥羽市や関連企業等との連携を更にすすめることで、生徒の主体的・対話的で深い学びを推進する必要がある。</p> <p>＜ICT教育について＞ 昨年度、校内のインターネットに係る環境整備がある程度整った。今年度は、その活用について十分に検討し、基礎学力の定着に生かすとともに、地域との連携や国際交流活動に生かしていく必要がある。</p>
	学校運営等	<p>【現状】 南勢地域で唯一の総合学科高校として、特色ある教育活動を展開しているが、伊勢志摩地域の中学校卒業者の急減等に伴い、募集定員を満たせない状況が続いている。平成29年度から学校活性化協議会を設置し、地域と学校がこれまで以上に連携して学校を活性化していく議論や取組を進めている。若い教職員が多い職場であるため、若手と経験豊富な教職員が対話を通じて学び合う前向きな学校文化、風通しの良い職場風土を築くことが必要である。</p> <p>【課題】 昨年度は、国際交流をはじめコロナ禍においても新たな取組を実践し、「広報とば」をはじめ、様々なメディアで取り上げてもらったが、中学生やその保護者に十分に情報が届かず、入学定員に届かない状況が続いている。今後は情報発信の方法を見直し、本校の現状を地域に理解してもらい、選ばれる学校づくりを進める必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 組織的な授業研究、授業改善及び教材開発に取り組み、子どもたちの基礎学力の定着・発展的学力の伸長を図り、一人ひとりの進路実現につなげる。 2 観光教育の視点での地域学習を推進し、体験的活動を通して、確かな学力や自尊感情、自らの未来を切り開く意欲・態度を育てる。 3 学力の向上とともに、部活動の活性化を促進し、地域社会に貢献できる人材を育成する。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成27年度から改編された総合学科の系列学習が円滑に実施できるよう校内外での条件整備に取り組む。 2 全職員がまとまって子どもに向き合い、一人ひとりの成長を支援できるよう、組織力の向上と前向きな学校文化の醸成を図る。 3 組織のしくみの改善や働きやすい職場づくりに取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<p>(1) 基礎学力の定着・向上</p> <p>① 生徒の学力の客観的な把握と学力に不安のある生徒への継続的な指導に取り組む。</p> <p>□ スタディサプリ等の実施と活用</p> <p>□ 学力に不安のある生徒に対する課題・補習等の継続した指導の実施</p> <p>② 学習習慣を確立し、家庭での学習を促進する。</p> <p>□ 授業における日常的な小テストや課題・宿題の実施</p> <p>□ TT や少人数授業等によるきめ細かい指導</p> <p>③ 組織的な「学び直し」を授業内外で行う。</p> <p>□ 「マナトレ」「スタディサプリ」等を活用した授業における継続的な学び直しの実施</p> <p>□ 「朝学」の実施</p> <p>④ 「わかる授業」、学習意欲を高める学習活動をめざし、組織的な授業改善、授業研究及び教材開発を図る。</p> <p>□ ICTを活用した授業を検討する。</p> <p>□ 授業公開週間：年 2 回設定・実施</p> <p>□ 公開研究授業及び授業力向上研修：年 2 回実施</p> <p>□ 授業改善に関する校外での教員研修への参加：年間 5 人以上</p> <p>□ 教科会を授業改善の研究・交流の場として活用：各学期 1 回以上実施</p> <p>□ ユニバーサルデザインを意識した授業に向けての教室等の環境整備</p> <p>□ 地域の中学校と連携した授業改善に関する取組：公開授業等への相互参加 5 人/年</p> <p>⑤ 社会人として必要なスキルを身につけるため各種検定試験や資格取得に取り組む。</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力の習得・向上</p> <p>① 主体的・対話的で深い学び、生徒主体の授業づくりに向けての実践研究に取り組む。</p> <p>□ 全教科でアクティブラーニングを取り入れた授業づくりの実施</p> <p>② 授業等における発表や総合学科発表会等、生徒の学びの成果を発表する校内外の機会を充実させる。</p> <p>□ 校内外での公開発表会の実施・参加：年間 5 回以上</p>	<p>(1)①●スタディサプリ到達度テスト実施(①4月→5月、②1月)、結果の分析、授業・長期休業の宿題・補講での取組や課題の配信</p> <p>到達度テストの正答率及び正答率 25%未満の項目</p> <p>1学年:正答率 49.5% → 40.4%</p> <p>42/236= 17.7% → 52/180=28.9%</p> <p>2学年:正答率 48.4% → 42.8%</p> <p>62/252= 24.6% → 48/180=26.7%</p> <p>3学年:正答率 48.3% → 42.5%</p> <p>62/252= 24.0% → 46/180=25.6%</p> <p>○ 考査前の学習会や補習の実施</p> <p>②○英語・国語・理科・家庭・福祉・商業・情報の授業で TT・少人数授業実施</p> <p>③○朝学(学年)、スタディサプリ(教務、学年、数学)実施</p> <p>④● 授業公開週間：6/7～6/16、10/4～10/13(中止)</p> <p>○6年次研修(家庭科1名)、初任者研修(地歴公民1名、理科1名)、基礎学力の向上のための視察(11/17 2名 12/8 3名)</p> <p>⑤●全商英語検定1年全員受検(受験級の廃止に伴い取りやめ)</p> <p>(2)①○各教科で取組</p> <p>②○総合学科研究大会(12/24)、地域創造サミット(12/26, 27)、総合学科発表会(1/28)、鳥羽学成果発表会(なかまち、石鏡町、2月予定が感染拡大で作品鑑賞に変更)</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>

<p>生徒指導の充実</p>	<p>(1) 自尊感情・規範意識・人権感覚の涵養</p> <p>① 授業規律確保の指導を徹底する。</p> <p>② 挨拶や言葉遣い、頭髪や服装等、基本的な生活習慣の確保や規範意識・コミュニケーション力向上の指導を全職員で徹底するとともに、自尊感情を育む生徒へのあたたかい声かけを行う。</p> <p>□ 挨拶指導の徹底</p> <p>□ 制服等の着こなし指導、異装束等の預かり指導の徹底</p> <p>□ 毎朝の登校指導、授業時間中の校内巡視の実施</p> <p>③ 生徒の環境美化意識の向上を図り、清掃活動・環境美化活動の充実・徹底に取り組む。</p> <p>□ クリーン週間の実施：年2回</p> <p>□ 校外環境美化活動：年2回</p> <p>④ 人権教育推進計画及び人権教育カリキュラムに基づき、計画的な人権学習を推進する。</p> <p>□ 公開人権 LHR の実施：年1回</p> <p>(2) いのちを大切にする教育の推進</p> <p>□ 各教科等において「いのちを大切にする教育」を内容とした授業の実施：年間1回以上</p> <p>□ 「いのちの大切さ」に関する生徒向け講話・講演等の実施：年間1回以上</p> <p>□ カウンセリングマインド・アンガーマネジメント等に関する校内研修の実施：年間1回以上</p> <p>(3) いじめを許さない姿勢の育成</p> <p>□ いじめ防止アンケートの実施：年間3回以上</p> <p>(4) 生徒情報の的確な把握と情報共有を進め、専門家・機関と連携した生徒指導、教育相談を行う。</p> <p>□ 人権教育推進委員会での生徒情報共有：月1回</p> <p>□ 支援委員会での支援対象生徒情報共有：各学期2回</p> <p>□ スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、特別支援員との連携</p>	<p>(1) ① 〇鳥羽高校版「授業のきまり」の徹底、授業観察カードの活用</p> <p>② 〇教員・生徒(生徒会役員)による朝のあいさつ活動を実施：教員は毎授業日実施、生徒会は11月に1日間実施</p> <p>〇毎日の登校指導、下校指導、校内巡視を実施</p> <p>〇生徒会・生徒有志による地域防犯・交通安全ボランティア「鳥羽レンジャー」の取組：11月2回実施</p> <p>③ 〇校内美化強化週間・クリーン週間を1学期は中止、2・3学期実施</p> <p>● 校外環境美化活動：学期末の予定(中止)</p> <p>④ 〇2学期に公開人権 LHR 実施 →非公開で実施(12/15)</p> <p>(2) 〇各教科で工夫しながら「命を大切にする教育」を内容とした授業に取り組んでいる。</p> <p>〇性教育講座、DV 防止講座、薬物乱用防止教室、人権講演会を実施</p> <p>〇アンケートを実施</p> <p>(4) 〇人権教育推進委員会毎月開催、生徒情報交換を実施。</p> <p>〇支援委員会各学期2回開催</p> <p>〇SC、SSW の活用：保健部、人推を窓口に連携</p>	<p>◎</p> <p>※</p>
<p>キャリア教育の充実と進路保障の取組</p>	<p>(1) 基礎学力の定着・向上</p> <p>① 総合的な学習の時間や朝学の時間を活用し、基礎学力の必要性を理解させ、学びを深める。</p> <p>② 生徒の進路希望や実態を踏まえ、進学や資格取得のための補習や個別指導に取り組む。</p> <p>(2) 確かな進路実現に向けた細やかな進路指導とコミュニケーション力の向上に取り組む。</p> <p>① 進路決定につながる情報や資料を具体的に生</p>	<p>(1) ① 〇朝学や総学の時間にプリントやドリル学習を実施</p> <p>② 〇進学希望者向けの課外を実施</p> <p>(2) ① 〇夏季休業中に3年担任団・進路指導部による面談・指導を実施</p>	<p>(1)</p>

	<p>徒に提示し、面談を密に行う。</p> <p>②全教員による実践的な面接指導を実施する。</p> <p>③挨拶や言葉遣い、身だしなみ、基本的な生活習慣等、社会人として必要な最低限のルール・マナーを意識付けるよう声かけを行う。</p>	<p>②○夏季休業中に全教員による面接指導を実施</p>	◎
<p>学校の魅力化・活性化と地域学習の推進</p>	<p>(1)市当局や小中学校、地域関係者等の参画による学校活性化協議会を開催し、活性化プランに基づく取組を推進する。</p> <p>□協議会の開催:年間3回</p> <p>(2)各教科、系列の授業や「産業社会と人間」等での地域学習の充実を図る。</p> <p>□外部講師による地域学習・フィールドワーク:年間20回以上</p> <p>□鳥羽市との連携・協働による地域課題解決型授業の構築</p> <p>(3)デュアルシステム及びインターンシップの円滑な実施と課題改善に努める。</p> <p>(4)観光教育の視点での地域学習を推進する。</p> <p>①全国高等学校観光教育研究協議会主催「全国高等学校観光教育研究大会」「観高サミット」への教員・生徒の参加</p> <p>②「全国高等学校観光選手権大会」への参加を核とした地域学習の取組</p> <p>③県外の高等学校との定期的な観光教育学習の交流</p> <p>(5)国際交流を推進し、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成を図る。</p> <p>□国際交流活動:年間2回以上</p>	<p>(1)○活性化協議会4回開催(7月上旬、11月、2月、3月実施)</p> <p>(2)●外部講師による地域学習(産社:9月実施予定→延期)、フィールドワーク授業(産社:2回(4月答志島、11月神島ともコロナで中止)、鳥羽学10回程度実施)</p> <p>○文理進学系列2年学校設定科目『鳥羽学』の授業で、鳥羽市と連携した課題解決型学習実施:なかまちコース「動画制作」、石鏡町コース「VR映像制作」、水産研究所「各テーマ研究」の取組</p> <p>(4)①●「全国高等学校観光教育研究大会」、観高サミットへは、コロナのため不参加</p> <p>③●県外の高等学校との観光教育の交流についてはコロナのため中止</p> <p>●愛知県福江高校での野球部合同練習(8月実施予定→中止)</p> <p>(5)●台湾・中国との交流はコロナのため中止→1年SDGs学習会を実施(12/9)</p>	◎ ※

改善課題

- ・全教科において、授業規律の確保を目標に取り組みを進め、落ち着いた授業を受ける雰囲気確保することができた。
- ・「スタディサプリ」を活用した基礎学力の充実を目指し取り組んだが、課題の配信等が十分活用できなかった。次年度は、全教職員で基礎力の向上を目指す取組とする計画である。
- ・コロナ禍の中でも工夫を凝らした教育活動を実施できた。
- ・国際交流の分野では、2年生の台湾修学旅行を計画していたが新型コロナウイルス感染症拡大のため延期となった。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍ではあるが、中高交流を再開できる手立てを考えて実現していただきたい。・授業形態が劇的に変化した。日常的に深い学びを実現できるように授業展開を再考願いたい。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・I T Cを活用した授業改善・基礎学力の充実を目指した新たな取組・コロナ禍の中での持続可能な教育活動
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・魅力ある教育活動の定期的な発信・定時退校、部活動休養日の徹底、総勤務時間の縮減